平成 23 年度 安曇野検定【一般の部】試験問題の訂正内容

第９問　安曇野を潤すそれぞれの堰が開削された順番で、正しいのは？

①矢原堰、新堀堰、勘左衛門堰、拾ヶ堰　②新堀堰、拾ヶ堰、勘左衛門堰、矢原堰
③拾ヶ堰、勘左衛門堰、矢原堰、新堀堰　④勘左衛門堰、矢原堰、新堀堰、拾ヶ堰

安曇野市ホームページの「安曇野を流れる堰」の中で、新堀堰（堀廻堰）の説明に「江戸時代の 1678 年に新堀堰が開削された。」と記述されていましたが、1678 年に開削されたのは新堀堰ではなく、新堰（小多田井堰）であることがわかりました。

新堀堰は、「水が織りなす安曇野今昔物語」講座堀金編第２回「堀金地域の成立ちと今日までの変遷」の資料５ページに記述されているとおり、万延２年（1861 年）に開削されました。

従って、堰の開削された順番については、矢原堰が 1654 年、勘左衛門堰が 1685 年、拾ヶ堰が 1816 年、新堀堰が 1861 年に開削されたため、正答は**「矢原堰、勘左衛門堰、拾ヶ堰、新堀堰」**の順番になります。

第 21 問　中房川には、その豊かな水量を利用した水力発電所があるが、全長 16.1 キロの間にいくつの水力発電所があるか？

①　３つ　　②４つ　　③５つ　　④６つ

市ホームページの「安曇野水物語」の中房川の説明の中に、「６つの水力発電所があり、12000KW の発電量をもっている。」と書かれていましたが、「宮城第一、宮城第二、宮城第三、中房第四、中房第四補助、中房第五」の６つの水力発電所のうち、「中房第四補助」が昭和 38 年 11 月 30 日に廃止され、現在の発電所の数は５つとなります。

第 21 問の設問では、現在の状況と過去の状況のどちらに対しての問いか明確にわからないため、「③５つ」と「④６つ」の両方を正答とします。

第 97 問　穂高出身の相馬愛蔵とその妻である良(りょう)が、明治 31 年（1901)、東京に開いた菓子店は斬新な経営で大繁盛し、またサロンとしてわが国の文化の発展に大きく貢献した。この店の名は？

＜問題文の訂正＞
【誤】明治 31 年(1901)　→　【正】明治 34 年(1901)